

RCHR 第9回シネマde人権コウ チャ ニュウ
話題提供: 高 賛 侑 氏

(映画監督・ノンフィクション作家)

無料

2月17日(水)

14:00~16:00

オンライン開催

第1部 映画の上映 ※事前オンライン視聴

第2部 監督とのトーク

ドキュメンタリー映画上映会
『アイたちの学校』
& トークイベント
(監督 高賛侑)

参加希望者は[こちら \(リンク先\)](#) の申込フォームにご記入ください。※右側のQRコードからもアクセス可
折り返し参加に必要な情報をお知らせします。
なお、オンライン参加の困難な事情のある方は
ご相談ください。



子ども ハッキョ アイたちの学校

100年の差別—その闘いの記憶

朝鮮学校の歴史と現状を描く初の長編ドキュメンタリー

誰もが教育を受ける権利。それを実現するための第一歩が高校無償化制度なのかも知れませんが、2010年政府はその制度から朝鮮学校(在日コリアンの子どもたちは「ウリハッキョ」と呼ぶ)を除外しました。公的支援除外問題から見られる朝鮮学校の痛みは今日に始まった問題ではありません。100年にのぼる在日コリアンの歴史、それは在日コリアンの教育権をめぐる闘いの歴史でもあったのです。今回のシネマ de 人権では高賛侑監督の『アイたちの学校』を通して在日コリアンと教育、人権について考えてみます。

- ※1. 新型コロナウイルス感染症の拡大により、今回はオンラインで開催します。
- 2. 表のリンク先やQRコードで申込フォームにアクセスしてください。
- 3. 事前申込して下さった方のみ、上映会とトークイベントにアクセスできるURLを送信します。
- 4. 映画は2月6日(土)から20日(土)までオンライン公開しますので、その間にご自由にご覧いただけます。
- 5. 監督とのトークは2月17日(水)14:00からスタートしますので、映画は事前にご覧ください。

第1部：映画の上映

朝鮮学校の歴史と現状を描いたドキュメンタリー。1910年の韓国併合から110余年。戦後、各地に国語講習所が設立されてから70余年。在日朝鮮人たちはさまざま差別と闘いながらも、アイ(子ども)たちの夢を育てるため、朝鮮学校という幼稚園から大学にいたる民族教育事業を続けてきた。しかし、2010年に日本政府は高校無償化制度から朝鮮学校を外し、地方自治体も次々と補助金を打ち切るなど、近年の朝鮮学校を取り巻く環境は厳しく、朝鮮学校は裁判闘争に立ち上がる。そんな朝鮮学校にまつわる知られざる歴史的資料や証言を発掘し、100年におよぶ差別との闘いを浮き彫りにする。朝鮮大学出身で、ジャーナリスト、ノンフィクション作家として在中外朝鮮民族問題を専門にしてきた高賛侑が、初めて映画監督を務めた。(映画.comより)

- ◆ 2019年 キネマ旬報ベスト・テン文化映画選出(10位)
- ◆ 2020年 <韓国・YWCAが選んだ良いメディアコンテンツ賞> 優秀賞(正義・平和)受賞

第2部：監督とのトーク

高賛侑 監督 朝鮮大学校卒。朝鮮関係月刊誌『ミレ(未来)』編集長を経てノンフィクション作家。自由ジャーナリストクラブ理事。専門は在日・在外朝鮮民族問題。部落解放文学賞(記録文学部門)受賞。著書に『アメリカ・コリアタウン』(社会評論社)、『国際化時代の民族教育』(東方出版)、『異郷暮らし』(毎日新聞社)、『ルポ 在日外国人』(集英社新書)他多数。共著に『在日一世の記憶』(集英社新書)、『ひとびとの精神史』(岩波書店)他多数。2019年ドキュメンタリー映画「アイたちの学校」監督。

伊地知紀子 先生 大阪市立大学大学院文学研究科教授。

お問い合わせ： 大阪市立大学人権問題研究センター cinema@rchr.osaka-cu.ac.jp